蜂

フォト劇場（49）

写真が生むものがたり

ハミングは生の讃歌か蜂鳥のシスコの旧き教会の園

佐々木鏡子

蜂のように顫音を立てて飛ぶ小さな鳥と出合ったのは、桑港へ行った時のことである。蜜を求め花を行きする様子を飽かず眺めた。蜂鳥（ハミングバード）を見たのは、これが最初で最後である。はや四十年が経つ。

野へ山へ花をもとめてミツバチと養蜂家との旅ははじまる

坪井真里

おじいさんは蜂を飼っている、という友だちがいた。初めて聞く職業だったが、洋楽や洋画のことをよく知っている物静かな友だちに、浮世離れしたおじいさんがいるのは不思議もないな、と思ったのだった。

写真・木畑紀子

働き蜂はオスだとずつと思ひしが女王以外のメス
蜂と知る　　前田　明

旧友が定年を機に養蜂家になった。彼が蜂蜜を持って会いに来た時、ミツバチの不思議な生態を聞いた。働き蜂は女王蜂以外の雌で、巣作りや花の蜜集めなどをする。雄蜂の仕事は交尾だけ……。ちょっと悲しい。

アナフィラキシー起こすがごとく恋をせりあの日
と同じ花の香の中　　船岡みさ

子供の頃、蜂に刺された。祖父がアンモニアをつけてくれて「これでよし」と。昭和の手当てである。今は傷口を洗って毒を絞り、抗ヒスタミン軟膏などを塗るのがよいと知っている。アンモニアは効かないらしい。